

(表 1) 1999 年度 国語 I (現代文) 単元一覧 (カリキュラム)

単 元 名	単 元 構 造 (教 材)			指 導 目 標 (学 力)		備 考 (学 習 活 動 等)
	教 材 名	教 材 特 性	教 材 関 連 の 視 点 (単 元 の 趣 旨)	認 識 内 容	認 識 ・ 表 現 方 法	
1 自 己	< 自己との出会い > ①「しろい春」(詩) 吉原幸子 (教科書教材) ②「友情」(随想) 中野孝次 (教科書教材) ③「海からの贈り物」(随想) アン・モロウ・リンドバーグ / 吉田健一訳 (『海からの贈り物』新潮文庫)	①未来に新しい自分との出会いを期待したもの。 ②自分とは異なる他者との出会いが自己発見につながるというもの。 ③物理的にひとりになる時間と空間を持つことの必要性を説いたもの。	①で未来の自分を創るのは自分であることを捉えさせ、そのためにも自己と出会う方法として②で異なる他者との出会いを、③でひとりになる時間と空間を持ち、日常から離れた場所で自己を見つめる、といった相反するものを配置している。	未来の自分を創るのは自分であること、そのためにも自己と出会う方法として自分とは異なる他者との出会いや、逆にひとりになる時間と空間を持つ必要性を認識する。	①比喻内容を的確に捉えながら、それらの関係を捉えさせる。 ②引用を用いての解説といった文章特性を捉えさせる。 ③事例が主要な位置を占める随想の、文章特性をつかむ。	○疑問点解明のためのグループ討論
2 自 己	< 成長とは何かを考える > ①「ネロ」(詩) 谷川俊太郎 (教科書教材) ②「とんかつ」(小説) 三浦哲郎 (教科書教材) ③「子供のいる駅」(小説) 黒井千次 (『星からの一通話』新潮文庫)	①自らの問いに自ら答えるために生きていく決意をうたったもの。 ②一少年の修行を通しての成長を、旅館の女将の目から描いたもの。 ③一少年が初めてのひとり旅で切符をなくし、大人になるまで駅の一角に隠る決意をする話。	①で身近なものの死を乗り越えての成長を、②で自分の置かれた立場を引き受け、辛い修行に耐えることで得られた成長を捉えさせ、さらに③で大人への移行期に誰もが経験する精神的「引き籠もり」が、成長には必要であることをつかませる。	精神的に成長するには、悲しみや苦しみを乗り越える必要があること、また支えてくれる周囲の人の存在も必要であるが、一方で「さなぎ」のような時期も必要とすることを認識する。	①ネロと自分の生の比較から人間の生に思いを馳せ、未来に向かう契機となる構図を捉えさせる。 ②修行前と後の描写を比較し、場面ごとの心理をつかむ。 ③あえてひとり旅をしようとし、また駅に隠ろうとした主人公の内的必然性を描写からとらえる。	○疑問点解明のためのグループ討論 ○単元のまとめの文章 (段落の柱指示・時数制限なし)
3 社 会	< 現代社会を生きる ― 時間管理と人間 > ①「ある大晦日の夜の記憶」(詩) 西条八十 (『西条八十詩集』新潮文庫) ②「考えさせられるふたつの答え」(随想) ミヒヤエル・エンデ / 子安美知子訳 (教科書教材) ③「機械と人間」(論説) 市川浩 (教科書教材)	①時を積み重ねることの意味を問うたもの。 ②インディオのものの考え方との比較を通して、快適を追求する文明を得たことで、失われた魂の問題を取り上げたもの。 ③機械による人間の疎外の問題を論じたもの。	①で時間というものの不可思議な存在を考えさせ、②で現代社会に生きる私たちが見失っている時間とのつきあい方を考えさせる。さらに③では、②での問題がなぜ起きたのかを社会構造から捉えさせる。	歳を重ねることの意味や時間の過ごし方について考え、現代社会の、時間に追われて自分の心がついていけない、すなわち疎外状況が生じた一因が社会構造にあることを認識する。	①大晦日という設定が生み出す効果を考え、時の受け止め方をとらえる。 ②筆者の主張を支える事例の用いられ方の効果を考える。 ③論説という文章特性を踏まえながら、筆者の論の立て方を把握する。	○疑問点解明のためのグループ討論 ○単元のまとめの文章 (段落の柱指示・時数制限なし)
4 人 間 (生 き 方)	< 悪とは何かを考える > ①「バイオ技術の『いけない』感じ」(随想) 池田晶子 (『考える日々』) ②「羅生門」(小説) 芥川龍之介 (教科書教材) ③「くらし」(詩) 石垣りん (『石垣りん詩集』ハルキ文庫)	①クローン牛から、バイオ技術がはらむ問題を取り上げたもの。 ②平安末期の荒廃した羅生門下で、迷ったあぐく飢え死により盗人になることを選んだ下人の話。 ③人生の半ばを過ぎ、自分が生きる上で犠牲にしてきたものへの悔恨の思いをうたったもの。	①で自分の生存のために他の動植物の命を奪っているという自覚を持つことの大切さを捉えさせ、②で限界状況下における悪を考えさせる。③では、暮らしていくためには物質以外に精神的にも犠牲にせざるを得ないことがあるということを考えさせる。	自己の生存のためには多くの動植物の犠牲があり、限界状況下ではそうまでして生きる価値があると自覚できなくとも生を選び、日常でも精神的にも他を犠牲にする人間の性について考え、悪とは何かの認識を深める。	①筆者の主張がどのような事例に支えられているかを捉える。 ②場面ごとのできごと及び下人の心理をつかみ、設定や表現の効果を捉える。 ③ものの羅列が効果的に配置されていることをつかむ。	○疑問点解明のためのグループ討論 ○単元のまとめの文章 (段落の柱指示・時数制限なし)
5 言 葉	< 言葉をとらえる・言葉でとらえる > ①「a n o n y m I」(詩) 谷川俊太郎 (『空の青さを見つめていると』角川文庫) ②「言葉についての新しい認識」(論説) 池上嘉彦 (教科書教材) ③「わたし」(論説) 森本哲郎 (教科書教材)	①言葉での表現に依るしか、人は人であり得ないことをうたったもの。 ②言葉とは表現・伝達の手段以上のもので、ものの認識に関わることを取り上げたもの ③日本語の一人称の多さは日本人が対人関係を気にしていることを語っていることを論じたもの	①で「一語によって私は人」という意味を考えさせ、疑問は残したまま、次の教材に移る。②で言語がものの認識に関わっていることを、③で言語はその言語を用いる社会と密接に関係していることを捉えさせ、一連の言語に対する認識を深めさせてから再び①に戻って疑問点を解決する。	人間にとって言葉とは、ものを認識する手段であり、またものを認識する方法であるゆえに、言葉での表現に依ってでしか人間は人間であり得ないことを認識する。	①「私」と「君」との対比が生んでいる効果を捉える。 ②筆者の論の展開の仕方にどのような問題があるかを捉える。 ③事例から主張に至る筆者の論の展開の仕方を捉える。	○疑問点解明のためのグループ討論 ○単元のまとめの文章 (段落の柱指示・時数制限なし)